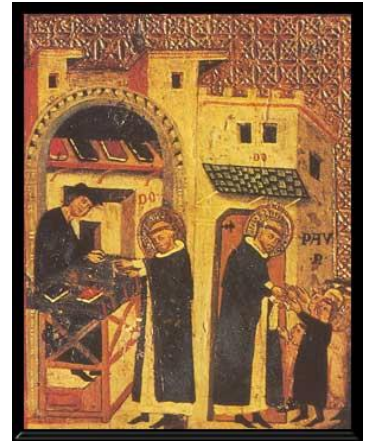


グスマンの 聖ドミニコ 2017年



最も親愛なる姉妹の皆様

わたしたちは、もうすぐ思いやりの人である、わたしたちの父グスマンの聖ドミニコの祝日を迎えようとしております。彼の思いやりは、世界のためにいつくしみの応答者になりたかったです。

いつも同時代の人々の注目をあび、今日も今まで以上に必要である聖ドミニコの3つの資質があります。それは喜び、現実主義、そしていつくしみです。

喜びは、素朴な日常生活の中で、必ずしも大騒ぎをさせたり、気晴らしをさせるようなものでなく、健全で快適な環境を作る深刻なものです。喜びは、人々を抑圧する多くの状況では、受け入れられないものを識別を知っている明快なビジョンとして、現実主義と一つにならなければなりません。いつくしみは、希望をもった現実主義に近づきます。いつくしみは、温情主義や瞬間的な痛みをとり除く態度でなく、現実と連帯の近さから出発して、生活の意義を見出せない人に支援するための恒久的な心構えです。

聖ドミニコにおいては、彼の伝記作家ペトロ・フェランドによると、彼の思いやりは、すでにドミニコ会を創立することを考える以前に、子供の頃から輝いています。「彼の幼少期から、彼と一緒に思いやりが育っていきました。彼は、思いやりをもたないで、すべて人の苦しみを見ることができなかつたまでに、他人の悲惨さを自分自身のものにしていました。」ここによく覚えている若い聖ドミニコの次のような有名な出来事があります。大飢饉がパレンシア地方一帯をおそいました。聖ドミニコは、深く貧しい人びとに同情し、彼がもっていたすべてのものを与えていました。経済的なものだけでなく、知的な幸運をもたらすであろうと思われる自分が最も大切にしていた本、その中には自分の覚書や注解をした本さえも与えました。もっと劇的なこととして、どちらかといえば、彼が販売するものをもっていなかったとき、奴隷として売られることを意図している彼の人生の別の場面があります。

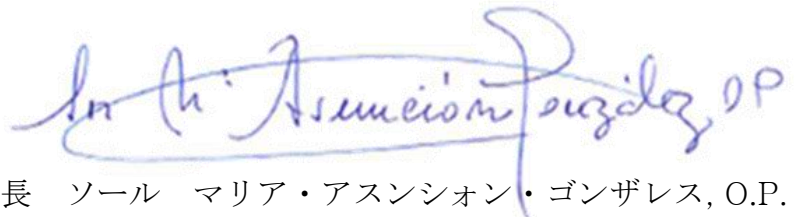
ここにいつくしみ、利己主義、そして連帯責任がなかった社会の批判があります。信仰は、言葉を通して提供されるが、実際の証が必要です。今日、わたしたちは、わたしたちの力による手段をもちいて展開しなければなりません。

彼が南フランスを旅行した際に、カトリックの信仰を失わせるために、人びとの無知を利用したカタリ派の異端者に出会ったとき、この思いやりがかき立てられます。聖ドミニコとともに過ごした人たちは、彼の顔は、彼が人々のいかなる苦しみをもっていたとき以外は、常に幸せに輝いていて、いつも朗らかであったと語っています。聖ドミニコの思いやりは、祈りに向かわせ、このように連帯の祈りになって、行われました。思いやりは、実際に彼の全生涯の特徴でした。

姉妹の皆さん、わたしたちの今日の世界は、あらゆる意味において、いつくしみが急務とされています。痛みを伴う緊急事態は、自由と無私の愛を切望する少数の叫び、涙と苦悩がある世界に向けて歩いていくためにいつくしみを必要とします。わたしたちは、より人間的な世界を築くよう正義のために働くよう呼ばれています。このようにして、わたしたちは、平和、愛、そして喜びの満喫する接吻を受けます。

聖ドミニコの祝日おめでとうございます。

姉妹的抱擁を込めて。



総長 ソール マリア・アスンシオン・ゴンザレス, O.P.